

第59回中学生作文コンクール

都道府県別賞一等

生命保険は安心のお守り

栃木県 白鷗大学足利中学校 二年生

角田 佳織

『生命保険って何だろう?』を読んで、その後母に私の家の生命保険について聞いてみました。「生命保険の話は長くなるよ」と言われましたが、聞いた話をワークシートにまとめて書いてみました。

私の父は私が二歳の時に病気で亡くなっています。その時の話になりました。父の病気はガンで、診断された時にはもう治らないと母は病院で言われたそうです。

父は母と結婚した後、生命保険に加入することにしたそうです。父はそんな若いうちに亡くならないだろうと言って、入院や通院のための保険に入ったそうです。その保険には、ガン保険というものが付いていて、ガンと診断された場合、治療費などがカバーできるというものでした。母はそれにとっても助けられたと言っていました。遠くの病院だったので、母が看病に行くのに必要な交通費や滞在する費用などお金がたくさんかかったそうです。母は父が少しでも静かに過ごせるように個室に入院させたくて、それも保険がなければできなかったと言っていました。

父が亡くなってから少し経ち、落ちついていろんなことを考えたら、母はとても不安になったそうです。まず自分の生命保険の保障がとても少ないので、万が一自分に何かあったら、子どもたちはどうやって生活していくのだろうと思ひ、怖くなったそうです。すぐに保険会社の人に連絡をして保険の見直しをしてもらい、母に何かあった場合、兄と私が安心して暮らせる保険に変えてくれたそうです。そんなことは全く知らなかったので、私はその話を聞いてショックでした。でも母は母子家庭になっても、しっかりとした教育が受けられるように、学資準備のための保険に入ってくれたり私たちのことを考えてくれました。

私がこうして学校に通えるのも、兄が一人暮らしをしながら大学に行くことができるのも、母が働きながら一生懸命考えてきてくれたからだと思っています。「命はお金に変えられないけど、ママが大黒柱だから、ママがいなくなっても普通に生活できるようにしてあるから心配しなくて大丈夫」と言われました。兄にも同じ説明をしてあるそうです。今回この作文を書くことで、病気をしないように健康でいたいと思っけていても、病気になるったりケガをしてしまうことはあるし、働けなくなってしまうたりしたら生活が変わってしまうということ

第59回中学生作文コンクール

がよく分かりました。「生命保険は安心というお守り」と母が言っていた意味も分かりました。

もし母に何かあったらなんて、想像するだけで怖くなりましたが、母が兄や私のことをこういったところでも考えてくれていたことをとても感謝しています。今私に出来ることは、新型コロナウイルスの感染予防や健康に気をつけて生活していくことだと思います。母は私のことを手がかからない子で助かると言ってくれますが、これからもいろんなことに気をつけて生活していこうと思います。